1972年復帰と沖縄

外間 一先

1972 Reversion of Okinawa to Japan Kazuyuki HOKAMA

沖縄県立博物館・美術館, 博物館紀要 第15号別刷 2022 年3月31日

Reprinted from the Bulletin of the Museum, Okinawa Prefectural Museum and Art Museum, No.15 $$\operatorname{March},\,2022$$

1972年復帰と沖縄

外間 一先 1)

1972 Reversion of Okinawa to Japan Kazuvuki $HOKAMA^{1)}$

Abstract

Okinawa Prefecture will celebrate its 50th anniversary in Japan in 2022. The Okinawa Prefectural Museum and Art Museum will hold an exhibition after returning to Okinawa at the 50th anniversary of its return. Starting from May 15, 1972, the exhibition will look back on the history of Okinawa over the 50 years, focus on the transition, accumulation, unchanging, and individuality from various perspectives of nature, history, and culture, and plan to make the future-oriented exhibition structure of the possibilities of Okinawa in the future. Regarding the situation in Okinawa on the day of May 15, 1972, when it returned to the exhibition preparation, we are investigating the ceremony to commemorate the inauguration of the new Okinawa Prefecture, centering on the movement of the Ryukyu government, and the general meeting of the people of Okinawa who opposed the return. By touching on the various thoughts of the people at the time of their return, I realize that it is important to think about the current situation in Okinawa.

はじめに

沖縄県は2022年に日本復帰50年を迎える。沖縄県立博物館・美術館では「沖縄復帰後展」を開催する予定である。展覧会は1972年5月15日を起点に50年間の沖縄のあゆみを振り返りつつ、自然・歴史・文化の多様な視点で変遷・蓄積・不変・個性に注目し、これからの沖縄の可能性について未来志向的な展示構成にする計画である。展示準備にあたり復帰した1972年5月15日の状況について、琉球政府の動きを中心に復帰記念式典と新沖縄県発足式典のことや復帰に抗議した県民総決起大会などを調査する機会を得た。復帰当時の人々の様々な思いに触れることは、現在の沖縄の状況を考える上で重要なことであると実感している。

1. 1972 (昭和47) 年5月15日 午前

沖縄が復帰を迎えた1972年5月15日は、まさに「世替わり」といえる慌ただしい一日だった。当時の琉球政府は1972年4月27日付で各市町村、船舶

会社、漁協、船主、港務事務所あてに「新しい時代の到来を告げる合図について」依頼文を発送している。米国統治から解放され、新しい時代を告げる合図として、午前零時に各地域で停泊中の船舶の汽笛、各市町村(消防署)のサイレンを約1分間鳴らすことで復帰を告げたのであった。1)

早朝6時15分から第1回沖縄県議会(臨時)を開催。議長らを選出し県政移行に必要な予算や条例等を可決した。なお1971年12月30日に成立した「沖縄の復帰に伴う特別措置に関する法律」(通称:沖縄復帰特別措置法)により「従前の沖縄県は当然に地方自治法に定める県として存続することおよび沖縄県の市町村は地方自治法の規定による市町村となるものとすること」として琉球政府の行政主席を県知事、立法院議員を県議会議員とみなし、同法が施行した5月15日から沖縄県は地方自治体として始まった。2)

午前9時からは沖縄県庁表札除幕式を行った。屋 良朝苗県知事が式辞を述べたあと、真和志小学校5

¹⁾ 沖縄県立博物館・美術館 〒900-0006 沖縄県那覇市おもろまち 3-1-1 Okinawa Prefectural Museum & Art Museum, 3-1-1, Omoromachi, Naha, Okinawa 900-0006, Japan

年生の宮良高維、具志正子の両名が縦 1.5m 横 3 m 厚 0.75 m の沖縄県庁表札の除幕を行った。続いて表札の文字を揮毫した謝花雲石他 15名の制作関係者に感謝状を贈呈し、表札揮毫原本は大城立裕沖縄史料編集所長に保存管理を委嘱した。現在その原本は沖縄県立博物館・美術館が所蔵している。



写真 1. 沖縄県庁表札

除幕式と並行して沖縄県開庁式も行われた。早朝の県議会で議決された沖縄県部設置条例に屋良県知事が午前8時15分に署名したことにより、沖縄県は名実ともに組織として機能し開庁することになったのである。午前9時から新たな部長・次長、支庁長ら35名に屋良知事から辞令が交付された。知事訓示のあとに仲松庸幸総務部長が代表して服務を宣誓している。内容は以下のとおりである。「宣誓、私は、ここに日本国憲法を尊重し、地方自治の本旨に則り民主主義の精神を体し公務を効率的に運営すべき責務を深く自覚し、県民全体の奉仕者として誠実、かつ、公正に職務を執行することを固く誓います。昭和47年5月15日 仲松庸幸

午前10時からは那覇(会場:那覇市民会館)と東京(会場:日本武道館)をテレビ中継でつなぎ内閣主催で沖縄復帰記念式典が挙行された。式典の実施にあたっては沖縄復帰記念式典準備室が中心となり、各関係省庁の協力のもとに準備が進んだ。式典の記録映画が残されている。タイトルは「沖縄復帰記念式典記録」。35ミリフィルムのカラーで上映時間は約40分である。

2. 1972 (昭和47) 年5月15日 午後

新沖縄県発足式典に先立ち、那覇市民会館では午後零時40分から午後1時30分に伝統芸能鑑賞会を開催した。古典音楽「稲まづん節」で幕を開け、八重山民謡と宮古民謡が続いた。会場では琉球伝統芸能について、歴史や特徴を説明しつつ「優美豊艶、品格ある踊りで古典の純粋な姿で継承されていることはまことに貴重なものだと思います。数多い立派な文化遺産をたずさえて、祖国復帰できることは、私たちの誇りであり、喜びであります。」としてアナウンスした。式典が始まる直前にはブラスバンド演奏が披露されている。約20分間であった。演奏したのは全国吹奏楽連盟主催の第19回全日本吹奏楽コンクール金賞に輝いた県立首里高等学校吹奏楽部だった。

そして、いよいよ午後2時「新沖縄県発足記念式 典」が始まる。式典の冒頭では第二次世界大戦で犠 牲になった御霊に対し、沖縄の祖国復帰を報告する とともに世界の恒久平和を願って黙とうをささげ た。続いて屋良知事が沖縄県発足宣言を行い、式辞 を述べている。式典では沖縄県議会の星克議長のあ いさつや山中貞則国務大臣による祝辞(佐藤総理の 祝辞代読) が送られた。また「沖縄県章」と「沖縄 県民の歌」が式典内で紹介されている。「沖縄県章」 は、新生沖縄県の発足を期して、県のマークを募集 し、その中から1等入選した西澤弥一郎氏(京都市) の作品となった。3つの丸からなっている県章は、 一番外側の赤い丸は、沖縄県を囲んでいる海、中に ある白い丸はローマ字OKINAWAの「O」を表現 するとともに「人の輪」も表している。一番内側の 赤い丸は沖縄県の発展性を象徴しており、「海洋」「平 和|「発展|のシンボルだとしている。

午後3時から午後4時までレセプションが行われた。会場は那覇市民会館二階中ホールである。知事あいさつのあとに乾杯音頭があり、余興には琉球舞踊や空手演舞が披露された。

1972年5月15日「復帰の日」という歴史的な一日は、降り続く雨の中、午前零時に全船舶の汽笛を鳴らし、暁の県議会、開庁式、表札除幕式、国の復帰記念式典が続いた。さらに午後からは新沖縄県発足記念式典を開催し、祝賀には芸能や空手演舞が花を添えた。戦後から27年間のアメリカ統治から日

本への復帰を果たした沖縄の通過点「5・15」は、 復帰に対して人々の様々な思いを内包しながら、大 きな歴史の流れの中で名実ともに「長い一日」だっ たのである。

3. 記録映画の製作

日本武道館で行われた式典は、天皇、皇后両陛下がご臨席し、那覇(会場:那覇市民会館)とテレビで結ばれて一体的に進められた。式典の記録は、記録写真・記録レコード・記録映画に収められた。

記録映画は、国立公文書館に保管されている。映画は過去の沖縄関係記録フィルムと式典の模様を合わせて編集した内容である。記録映画は2本製作された。

①沖縄復帰記念式典記録

監修:総理府

(沖縄復帰記念式典準備室)

企画:日本広報センター

製作: 読売映画社

規格: 35mm ワイド判 カラー

上映時間 40 分

完成:昭和47年10月31日

②海と未来をひらく沖縄

企画:日本広報センター

製作:読売映画社

規格: 35 mm ワイド判 カラー

上映時間20分

完成:昭和47年9月30日

一般公開:昭和47年12月より松竹株式会社の全

国直営館及び系統館において上映

3) 『沖縄復帰記念式典記録』昭和 47年 12月 1 日内閣総理大臣官房



写真 2. 沖縄県庁表札

上記の2本の記録映画①の「沖縄復帰記念式典

記録」は「史料的価値を中心とし、沖縄復帰記念式典の模様を正確に記録した記録映画」として製作された。また②「海と未来をひらく沖縄」は「沖縄復帰記念式典の模様を収録すると同時に、新生沖縄県の力強い姿をえがいた一般公開用映画」としている。4)

4. 記録映画「沖縄復帰記念式典記録」

記録映画は沖縄の白い砂浜と青い海からスタートし、ハイビスカスやブーゲンビリアの花が映し出された後、首里の高台から那覇を望み、国際通りを歩く人々や農業に従事する人たちの素朴な風景が続く。ナレーションは沖縄の地理的位置や気候・人口について紹介し、沖縄県が「祖国復帰」したことを明言する。

続いて美しい紅型と花笠をまとい「四つ竹」を踊る女性が登場し、画面に守礼門が映ったところでタイトル「沖縄復帰記念式典記録」が登場する。題字は佐藤栄作総理大臣の字である。

画面は日本武道館へと移り、東京会場のシーンに なる。続々と集まる出席者に会場内の様子が映し出 され、壇上は日本国旗とデイゴの花をデザインした 真っ赤な装飾に彩られている。約1万人の参加者が 陸上自衛隊中央音楽隊が演奏する曲を聴きながら開 会を待っているところから画面は沖縄の那覇市民会 館へと移る。東京と沖縄をテレビ中継することを説 明した後、東京会場へと移り、天皇、皇后両陛下が 式典会場に入場するシーンになる。東京及び那覇会 場の開会宣言と国歌斉唱を終えた後に佐藤総理の祝 辞へと進み、祝辞では「沖縄は本日、祖国に復帰い たしました」と宣言する。続けて戦争で犠牲になっ た人々に沖縄復帰の報告を行い、現代に生きる我々 は自由を守り平和に徹することを誓うのである。そ して祝辞は27年間にわたり復帰を待ち望んだ沖縄 県民の苦悩に思いを寄せる内容になっていくところ で、画面には1965年の佐藤総理の沖縄訪問のシー ンが映し出される。ナレーションでは佐藤総理が当 時、那覇空港で述べた「私は沖縄の祖国復帰が実現 しない限り、わが国にとつて『戦後』が終っていな いことをよく承知しております」というフレーズを 紹介する。この部分での映像は沖縄訪問の際に熱 烈歓迎を受けている佐藤総理の様子が終始続く。

画面は佐藤総理の祝辞に戻り、「戦中、戦後にお ける沖縄県民各位のご苦労は、何をもってしてもつ ぐなうことはできませんが、今後本土との一体化を 進めるなかで、沖縄の自然、伝統文化の保存との調 和をはかりつつ、総合開発の推進に努力し、豊かな 沖縄県づくりに全力をあげる決意であります と述 べる。さらに「戦争によって失われた領土を、平和 のうちに外交交渉で回復したことは(中略)日米友 好のきずなの強さであり」、日米両国は先進国とし て世界の平和と発展に大きな責任を持つとした。画 面はここで1971年6月17日の日米による「沖縄返 還協定 | 調印式の様子に移り変わる。 42年から日 米交渉が続いたことや47年3月15日に協定の批准 書が総理官邸で行われた様子を映し出し、ナレー ションでは沖縄返還交渉を平和裏に成功させた成果 をアピールする。

佐藤総理の祝辞の後に、東京会場では戦争犠牲者と復帰を願いながらも亡くなられた方々への黙とうを行う。画面は沖縄の摩文仁などの南部戦跡や5月14日に那覇市識名の戦没者中央納骨堂で行われた復帰奉告慰霊祭の様子となる。続けて天皇陛下のおことばとアグニュー米国副大統領の祝辞が贈られた後に、シーンは「沖縄県庁」除幕式になる。渡航手続きが不要になった那覇空港の様子やドルから円への通貨交換などを記録した部分もあり、「世替わり」を迎えた庶民の様子を記録した映像も入っている。

那覇会場において山中貞則国務大臣の祝辞や屋良 知事のあいさつなど次々と紹介があったのちに、東 京及び那覇会場のそれぞれの会場で行われた青少年 代表の決意表明へと続く。沖縄県から代表を務めた のは具志孝助氏、上江田利枝氏の2名である。決意 表明では沖縄復帰へとたどり着いたことに感謝の意 を伝えたあとに戦争と27年間の米国施政権下につ いて触れる。そして「私たちはこのたびの返還協定 の内容は必ずしも満足しうるものではございませ ん。しかし残された問題については、日米両国の勇 気ある英知がこれを逐次解決していくものと期待し てやみません」と述べ、あらゆる挫折を乗り越え、 新生沖縄県建設への勇気を持つことを誓う。

そして式典の終盤を迎え、佐藤総理が「日本国バンザイ」を三唱する。興味深いのは、佐藤総理がアドリブで付け足したかのように「天皇陛下バンザイ」

三唱を行う点である。

映画は「沖縄総合事務局」の開所式へと移る。そして国際通りで買い物をする観光客に対して免税制度を導入していることや高速船ホバークラフトの就航で離島振興を図る様子や1975年の国際海洋博覧会の会場となる本部町の風景が登場し、日本となった沖縄が新たに歩み始めるというナレーションで締めくくる。



写真 3. 映画『沖縄復帰記念式典記録』

5. 5・15県民総決起大会

沖縄が日本に復帰した1972年5月15日は、前日から沖縄全域を大粒の雨が激しく降り続く状況であった。那覇市民会館で新沖縄県発足式典が行われている一方で復帰の在り方に抗議する集会が行われた。沖縄県祖国復帰協議会(復帰協)は午後3時から与儀公園において「沖縄処分抗議 佐藤内閣打倒五・一五県民総決起大会」を開催した。宮古や八重山でも同様の集会が行われている。

大会宣言 (大会チラシより)

「本日沖縄は、二七年に及ぶアメリカ帝国主義の不 法不当な軍事優先支配に終止符をうち、日本の施政 権下に『復帰』した。

ところで沖縄百万県民が今日まで、一貫して要求 し続けてきた祖国復帰は、戦争体験と引き続く米軍 支配のもとにしいたげられてきた苦い経験に基づく 反戦平和の立場に立った、『核も基地もない平和で 豊かな沖縄県の回復』であったにもかかわらず、こ の県民の要求を逆用して、日本の軍国主義復活と、 アジア核安保体制の確立を意図するものであって、 県民に引き続き差別と犠牲を強要す『沖縄処分』で あることは明白である」

復帰をもって沖縄問題は解決するのではなく、闘争はこれからであるとして「完全復帰」を勝ち取ることなど7つのスローガンを掲げて自衛隊反対・軍

用地契約拒否・基地撤去・安保廃棄・佐藤内閣打倒 を訴えたのであった。

大会は革新政党、各団体の決意表明が続き、宣言やスローガンを採択後に「ガンバロー三唱」で締めくくる。また大会終了後は会場の与儀公園からひめゆり通り、安里三叉路、国際通り、リウボウ前を通り那覇市泉崎にあった立法院前までデモ行進が行われた。



写真 4. 県民総決起大会要項

6. 「沖縄5月の10日間」

日本復帰を迎えた沖縄の人々68人の日記を掲載 した書籍がある。中央公論社『沖縄5月の10日間』 昭和47年7月25日発行で定価480円だった。

内容は、沖縄で生活しているさまざまな職業の人々の日記を基にしたもので、1972年5月10日から19日までの10日間にわたるドキュメントである。

第一部が「不安と混乱と怒り」、第二部が「自分の国に帰される意味」、第三部が「ドルから円への"値上げ世替わり"」、第四部が「沖縄処分の現実」という構成である。屋良朝苗県知事、新聞記者、主婦、ホステス、公務員、美容師、クラブ経営者、小学生や警察官など多様な執筆者たちである。

日記からは通貨交換と物価変動、諸制度の変更に 対する不安や基地を残したままで復帰することへの 不満などが読み取れる。なかには、たんたんと日時 を記録したものなどがあり、当時の人々が5月の 10日間をどのように過ごし何を思っていたのかを 垣間見ることができる貴重な資料である。

NHK放送文化研究所の世論調査部が実施した沖縄県民意識調査では、復帰の評価についてのデータがある。日本復帰について「非常によかった」「ま

あまあよかった」と肯定的に評価する人の割合は復帰翌年の1973年から1977年までは40%台で、「非常に不満」「あまりよくなかった」と否定的に評価する人の方が上回っていることがわかる。(図1)

戦後27年間続いた米国統治から日本へ復帰という世替わりは政治的・経済的にはもちろん社会全般にわたって課題を内包しながらの出来事だったことがあらためて浮き彫りになる。

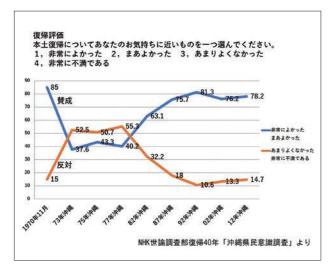


図 1. NHK 沖縄県民意識調査

7. 復帰当日の知事メッセージ

当時の沖縄県は新生沖縄県建設の意欲をアピール するために知事メッセージを県民に贈っている。

その内容は、復帰運動の主体となった県民への感 謝の言葉を先に述べ、生活面や経済、開発などにつ いて触れている。

県民自治を基調とした 平和で明るい豊かな県づくりに邁進しよう

~ 沖縄県民の皆様へ ~

沖縄県知事 屋良朝苗

私どもが、戦後27年余にわたって願望し、求め 続けてきました沖縄の祖国復帰は、本日の午前零時 をもってここにまさしく実現いたしました。

ここにおいて、新しい沖縄県が誕生し、私ども県 民は名実ともに日本国民としての地位を回復して、 日本国憲法の保護のもとでの生活が営めることになりました。

私は、長く、苦しく、そしてきびしかったこれまでの日々を思い起こすとき、県民とともにいい現すことのできない感慨を覚えるものであります。

これは本土同胞の絶大なるご支援と本土政府のご 理解によって実現されたことでもありますが、それ 以上に百万県民の長年にわたる真剣な努力があった からこそ達成できたものでもあり、ここに県民の皆 様に対し心から敬意を表し、感謝を申しあげます。

もっとも復帰の内容をみるとき、たびたび指摘されてきましたとおり、基地の態様をはじめ、未解決の問題が残されており、沖縄県民の要求と心情に照らすと、決して満足できるものでないことも事実であります。

しかし私どもは、復帰することによってもう孤立の状態を離れ、対外的にも日本国民としての立場を取り戻したのであります。したがって、私どもの前にはなお困難な問題が立ちはだかるかも知れませんが、国民全体が一体となってことにあたれば、必ずやこれは解決されるものと確信するのであります。

ところで、沖縄が復帰することは、行政権が米国から日本政府に移されるということになりますので、あらゆる制度が大きく変化するのはやむを得ません。

その中でも、とくに県民の生活に直ちに関係する ものをあげますと、まず、本5月15日を期して通 貨の切り替えがなされるのをはじめ、教育行政制度、 医療保険制度、生活保護基準、輸出入制度、電信電 話制度と料金など復帰のさい、本土の関係法令や制 度が適用されます。また、沖縄ではまだ実施されて いない積立郵便貯金や簡易生命保険などの郵政事業 が復帰後すみやかに実施されます。

次の県民生活に最もつながりのある米の消費者価格は復帰後も一定期間復帰のときの水準が維持されることになっており、各種免許資格は復帰後は、それぞれ本土法令による免許資格を有するものとして取り扱われます。また、税制については、必要な経過措置がとられたあと、復帰の属する年度から本土法が適用されます。

一方、国は、沖縄における本土との格差を是正 し、産業基盤など社会資本の充実整備に努めて復 帰後の沖縄の経済、社会の開発、発展をはかるため、 琉球政府が先に発表した「長期経済開発計画」を 尊重するとともに、各界各層の意見も反映させて 次のことについて総合開発計画を策定、実施する ことになっています。

①離島振興 ②農村漁村の育成振興 ③鉱工業、観光産業の開発 ④水、エネルギー資源の開発 ⑤交通、通信、道路、港湾、空港などの整備 ⑥国土保全施設の整備 ⑦教育施設の整備 ⑧保健衛生、医療および社会福祉施設の整備 ⑨生活環境施設の整備 ⑩労働環境の整備。

さて、新生沖縄県の目標は、県民自治を基調とした「平和で、明るい、豊かな県づくり」であります。 国は、沖縄の振興、開発のためいろいろな施策を展開するはずですが、私ども沖縄県民にとってみずからの運命を開拓し、歴史を創造する世紀の大事業であります。したがって私どもは、先ず、自主主体性を堅持してこの歴史的事業と取り組まなければならないと思います。

この5月15日は、沖縄にとって「きのうの今日」ではなく、新しい歴史の出発点であります。私どもは、この世がわりにさいし、新しい問題や一時的な混乱に直面するかもしれませんが、県民皆様におかれては、冷静に処され、希望をもって復帰を迎えられるとともに、今後とも力を合わせて、県民福祉の確立にご協力いただくようお願いし申しあげ、ごあいさつといたします。

昭和47年5月15日



写真 5. 県民メッセージ

おわりに

沖縄が復帰した 1972年 5 月 15日に注目すると、まさに激動の一日だったことがわかる。記念式典が行われている那覇市民会館に隣接した与儀公園では抗議集会が行われた。新沖縄県発足式典の中で屋良知事は県民の複雑な思いを代弁している。式辞のなかで、復帰という悲願を達成したが「内容を見ますと、私どもの切なる熱望が必ずしも十分に入れられたとは言えないことも事実であります」とし「厳しさは続き、新しい困難に直面するかもしれません」と述べた。

復帰50年が経過した今日において、沖縄は「新しい困難」を克服してきただろうか。米軍基地が集中する矛盾に対して抱く複雑な思いは今も続き、新たな自衛隊配備も進んでいる。「本土並み」や「格差是正」といった沖縄の課題や苦悩は復帰前から積み残されたままだ。新沖縄県発足式典で屋良知事らがあいさつしたステージ中央には「県民自治を基調とした 平和で明るい豊かな 県づくりに邁進しよ

う」と記されていた。当時の想いを受け継ぎ、沖縄 の課題と向かい合うのは歴史の登場人物である現代 の私たち一人一人である。

参考文献

- 1) 『沖縄復帰の日 新沖縄県発足式典・記念行事の記録』 神山長蔵 2008年
- 2)『復帰40周年記念特別展「日本復帰への道」展 示図録』(公財) 沖縄文化振興会 2012年
- 3)4)『沖縄復帰記念式典記録』内閣総理大臣官房 1972年
- 5) 『沖縄現代史』 櫻澤誠 中公新書 2015年
- 6) 『沖縄戦後民衆史 ガマから辺野古まで』森宣雄 2016年岩波新書
- 7)『復帰 40 年記念特別展「Okinawa から沖縄へ」』 沖縄県立博物館・美術館 2012 年

年表 サンフランシスコ平和条約施行~沖縄県の日本「復帰」~ 復帰50年 5).6).7)

西暦		元号					
	1952	昭和27					
琉	1969	昭和44	佐藤・ニクソン共同声明。72年沖縄返還で合意(11.22)				
琉球政府	1970	昭和45	コザ騒動発生 (12. 20)				
府	1971	昭和46	知花弾薬庫からジョンストン島へ毒ガス兵器を移送。完全復帰要求ゼネスト県民総決起大会を開く(11.10)				
	1972	昭和47	施政権がアメリカ合衆国から日本政府へ返還され、「沖縄県」となる (5.15)				
	1973	昭和48	特別国民体育大会「若夏国体」が開催 (5.3-6)				
	1974	昭和49	聖マタイ幼稚園不発弾が爆発事故。作業員3人と園児1人が即死、20人が負傷した(3.2)				
	1975	昭和50	糸満市摩文仁に沖縄県立平和祈念資料館が開館(6.12) 沖縄国際海洋博覧会が開催(7.20)				
	1976	昭和51	県知事・県議会議員選挙が実施され、知事に平良幸一が当選 (6.13)				
	1977	昭和52	沖縄県祖国復帰協議会(復帰協)解散 (5.15)				
	1978	昭和53	全県一斉に交通方法の変更(7.30) 県知事選挙実施、西銘順治が当選(12.11)				
	1979	昭和54	県・米軍・那覇防衛施設局の三者連絡協議会が発足。県、行政組織を改正し自衛官募集業務を加える(8.1)				
	1980	昭和55	那覇防衛施設局、米軍基地の未契約土地の強制使用手続きを開始 (11.17)				
	1981	昭和56	政府、米軍基地内の未契約土地の使用を認定(1.9) 県内確信市町村長会、自衛官募集業務拒否を決定(1.16)				
	1982	昭和57	復帰 10 周年祈念式典(5. 15) 高校用『日本史』教科書における「日本軍による沖縄住民虐殺」記述削除の問題が報道される(7. 4) 一坪反戦地主会設立(12. 12)				
	1983	昭和58	新石垣空港建設地問題が起こる。				
	1984	昭和59	中城湾新港地区の公有水面埋め立て工事はじまる。				
	1985	昭和60	琉球陶器の金城次郎が県内初の重要無形文化財技術保持者 (人間国宝) に認定 (3. 22)				
	1986	昭和61	沖縄県立芸術大学開学(4.1)				
	1987	昭和62	復帰 10 周年祈念事業の沖縄コンベンションセンター落成 (9.3) 第 42 回国民体育大会・海邦国体夏季大会が開催 (9.20-23)				
	1988	昭和63	沖縄電力、民営化へ移行 (10.1)				

年表 サンフランシスコ平和条約施行~沖縄県の日本「復帰」~ 復帰50年

1989	西暦	 元号	事項			
1990 平成。	四百		事			
1992 平成 3 大田如本、瀬川地域制度用広告・被電無知率代刊制度で代行を貼台 (5.28) 「神神総型の日子院改定、		9 ・平成元年 「平純惣霊の日」 体日廃止をめくって県議会で約約(6.22) ひめゆり平和祈念資料期開期(6.23)				
1992			The state of the s			
1993			大田知事、軍用地強制使用広告・縦覧県知事代行問題で代行を拒否 (5.28) 「沖縄慰霊の日」存続決定。			
1994						
1995 平成 7						
1995 平成	1994	平成 6	F15 戦闘機、嘉手納基地内黙認耕作地に墜落 (4.4)			
1997 平成 9 神徳空手古茂遠世界大会開催 (8. 2.1 - 2.4) 1998 平成 10 大田知事、曹末岡飛行導の受罪を関う住民投票実施 (12. 2.1) 1999 平成 10 大田知事、曹末岡飛行車が日本 18 18 18 18 18 18 18 1	1995	平成 7				
1998 平成10 大田原子 朱田原子田原社の名誉を設った日本	1996	平成 8	日米両政府が普天間基地返還で合意 (4.12)			
1999 平成10	1997	平成 9				
2000 平成13 9.11アメリカ同略で7.21ー23 頂珠年国のダスクおよび同連遺産群計の世界遺産登録(11.30) 2002 平成13 9.11アメリカ同時多発で発発(1.1) 2003 平成16 神郷経所や別指質法が施行(4.1) 2003 平成16 半成16 米軍ペリコグター、神縄国際大学に墜落・炎上(8.13) 2004 平成16 米軍ペリコグター、神縄国際大学に墜落・炎上(8.13) 2005 平成17	1998	平成10				
2001 平成13 9.11アメリカ同時多発テロ発生、神陽観光が打撃を受ける。 2002 平成14 神機振興特別諸麿法が能行(4.1) 神の2003 平成15 平成17 「平成の大合併」でうるま市、宮古島市が誕生。ラムサール条約に名蔵アンバル、慶良間海域登録(11.8) 2005 平成17 「平成の大合併」でうるま市、宮古島市が誕生。ラムサール条約に名蔵アンバル、慶良間海域登録(11.8) 2006 平成18 日米両政府、任治海兵隊終98000人のグアム移転や本島中南部の基地変遷を合意(5.1) 2007 平成19 日米両政府、任治海兵隊終98000人のグアム移転や本島中南部の基地変遷を合意(5.1) 2008 平成20 第80日選技高校野球大会で沖縄崎宇高校が立度目の優勝(4.4) 2009 平成21 「琉球舞鯛」が重要無形文化財に指定、組飾道具・衣裳製作修理」も国の選定保存技術に選定される(9.2) 関南高校が第2日週末島校野球大会で沖縄崎宇高校が立度目の優勝(4.4) 2010 平成22 「琉球舞鯛」が重要無形文化財に指定、組飾道具・衣裳製作修理」も国の選定保存技術に選定される(9.2) 2011 平成23 重要無形文化財に指定、組飾道具・衣裳製作修理」も国の選定保存技術に選定される(9.2) 2011 平成23 重要無形文化財保持済を人会(美島海神経療) が持縄野子間南佐 (7.28~8.20) 2011 平成23 重要無形文化財保持済を人の開口前に対理が表別、指摘音楽歌主衛の西江喜春(70)が設定(7.15) 2012 平成24 (初州4年) では、日本の日本の日本の日本の日本の日本の日本の日本の日本の日本の日本の日本の日本の日	1999	平成11	第71回選抜高校野球大会で沖縄尚学高校が初優勝 (4.4)			
2002 平成14 神縄振興特別指演法が施行 (4.1) 2003 平成15 神媒都市モンレール開業 (8.10) 2004 平成17 平成の大合射 でうるま市、宮古島市が遅生、ラムサール条約に名蔵アンバル、慶良間海域登録 (11.8) 2006 平成18 日米阿政府、在神海兵隊約8000人のダアム移転や本島中南部の基地返還を合意 (5.1) 2007 平成19 那覇市おも方まらに神風吸入博物館・美格館館所が開館 (11.3) 380回遠族高校野球大会で沖縄過ぎ高校が2度自の優勝 (4.4) 2009 平成21 「旗球脚間 が重要無形文化地に指定、銀頭道具・衣裳製作集理」も国の選定保存技術に選定される (9.2) 関南高校が第2回設施高校野球大会、第92回台国心投野状大会で各夏運搬、史上6校目の廃業達成 (8.21) 2010 平成22 「旗球脚間 が重要無形文化地に指定、銀頭道具・衣裳製作集理」も国の選定保存技術に選定される (9.2) 2011 平成23 重要無形文化財保存法、銀頭道具・衣裳製作集理 (11.17) 2011 平成23 重要無形文化財保存者 (人間国主)に神風の伝統意能、銀節音楽歌三線の西江喜春 (70) が認定 (7.15) 2012 平成24 使帰40年時職と近成で、(次近時服振興指演法 海外財職用推進計算法) (3.30) 2013 平成24 大学シリ州で旧石部計代人骨化石発見 第32軍司合協級契財板問題 (3.28) 2014 平成24 大学シリ州で旧石部計代人骨化石発見 第32軍司合協級契財板問題 (3.28) 2015 平成24 大学シリ州で旧石部計代人骨化石発見 第32軍司会施級契財板問題 (3.28) 2016 平成24 大学が大学院大学院大学院大学院大学院大学院大学院大学院大学院大学院大学院大学院大学院大	2000	平成12	九州・沖縄サミット開催(7.21-23)「琉球王国のグスクおよび関連遺産群」の世界遺産登録(11.30)			
2003 平成15 神機都市モノレール開業(8.10)	2001	平成13				
2004 平成16 米華ハリコブター、沖縄国際大学に繋落・炎上(8.13) 2005 平成17 平成の大合併] でうるま市、宮古島市が誕生。ラムサール条約に名蔵アンバル、慶良間海域登録(11.8) 2006 平成18 日米南政府、在中海兵隊約 8000人のグアム移転や本島中南部の基地返還を合意(5.1) 2007 平成219 那場市おらままとに沖縄駅立博物館・美術館新館が開館(11.3) 2008 平成20 第80回選抜高校野球大会で神報通学高校が2度目の優勝(4.4) 2009 平成21 「琉球舞踊」が重要無形文化財に指定、「組職道具・衣裳製作修理」も国の選定保存技術に選定される(9.2)	2002	平成14	沖縄振興特別措置法が施行(4.1)			
2005 平成17 「平成の大合併」でうるま市、宮古島市が誕生。ラムサール条約に名蔵アンバル、慶良間海域登録(11.8) 2006 平成18 日米雨夜府、在沖海浜殿約8000人のグアム移転で本島中南部の基地返還を合意(5.1) 2007 平成19 那朝市おもろまちに沖縄県立博物館・美権館館が開館(11.3) 2008 平成20 第80回選抜高校野球人会で沖縄向学高校が2度目の優勝(4.4) 2009 平成21 「琉球舞踊」が重要無形文化財に指定、「組飾道具・衣裳製作修理」も国の選定保存技術に選定される(9.2) 2010 平成22 「琉球舞踊」が重要無形文化財に指定、「組飾道具・衣裳製作修理」も国の選定保存技術に選定される(9.2) 2011 平成23 重要無形文化財保持者(人間に対していた機能制)が当場限で「18 (7.28 – 8.20) 2012 平成24 東京松田保存・大会・海底の西江高春(70) が認定(7.15) 2013 平成25 中華化学技術大学数子学開学(015710.91)	2003	平成15	沖縄都市モノレール開業 (8.10)			
2006 平成18 日米両政府、在沖海兵隊約8000人のグアム移転や本島中南部の基地返還を合意(5.1) 2007 平成20 郷斯市おもろまちに沖縄県立博物館・美術館新館が開館(11.3) 第80回遊技点を野球大会で沖縄両学高校が2度1回優勝(4.4) 2009 平成21 「琉球舞踊」が重要無序文化財に指定、「組踊道具・衣裳製作修理」も国の遊定保存技術に選定される(9.2)	2004	平成16	米軍へリコプター、沖縄国際大学に墜落・炎上 (8.13)			
2007 平成19 那覇市おもろまちに沖縄県立博物館・美術館新館が開館(11.3) 2008 平成20 第80回選抜高校野球大会で沖縄向学高校が2度目の優勝(4.4) 2009 平成21 「旋乗舞踊」が重要無形化比財に指定「組御道具・水変製作修理」も国の遺定保存技術に選定される(9.2) 奥南高校が第82回選抜高校野球大会。第92回全国高校野球大会で春夏連覇、史上6校目の偉業達成(8.21) 全国高等学校総合体育大会「美全高計構総体」が沖縄既て開催(7.28 - 8.20) 2010 平成23 重要無を化財保持者(人間国宝)に沖縄の伝統芸能、組船音楽歌三線の西江喜春(70)が認定(7.15) サキタリ洞で旧石器時代人骨化石発見 第32軍司令部爆設開放関節(3.28) 復帰40年沖縄2法成立(弦正沖縄振興措置法・跡地利用進島特帯法)(3.30) 沖縄21世紀ビジョン基本計画決定(5月) 沖縄等学技術・学教大学開学(015T)(9.1) 東京により実制諸島国育化(9.11) オスプレイ記信機が長手機が大学開学(015T)(9.1) 東京により実制諸島国存化(9.11) オスプレイ記信機の日」 石垣新空港開港(3.7) 白保下東田原内大学な大学教工学の計画と立場下治時部地域と変未渡(12.27) 沖縄県の党性赤海 3位 サキタリ洞で国内最古員製ビー×完良(2.15) 度良間諸島国立公園に指定(3.5) 東京の海 2011 平成26 東京の西山大学・大田上海市の東京の海 2015 平成27 東京の西山大学・大田上海市の東京の海 2015 東京の西山大学・大田上海市の東京の海 2015 東京の海 2015 東	2005	平成17	「平成の大合併」でうるま市、宮古島市が誕生。ラムサール条約に名蔵アンパル、慶良間海域登録(11.8)			
2008 平成20 第80回選抜高校野球大会で沖縄向学高校が2度目の優勝(4.4) 2009 平成21 「琉球舞踊」が重要無形文化財に指定、「組踊道具・衣裳製件修理」も国の選定保存技術に選定される(9.2) 興南高校が第82回選抜高校野球大会、第92回全国高校野球人会で春夏重期、史上6校目の像業達成(8.21) 2010 平成22 全国高等学校総合体育会(美色為沖縄総称)、対学観味で開催(7.28 ~ 8.20) 2011 平成23 重要無形文化財保持者(人間国宝)に沖縄の伝統芸能、組踊音楽歌三線の西江喜春(70)が認定(7.15) 2012 平成23 重要無形文化財保持者(人間国宝)に沖縄の伝統芸能、組師音楽歌三線の西江喜春(70)が認定(7.15) 2013 平成24 中本分り洞で国石器時代人骨化石発見 第23至軍司令部確認財財限開図(3.28) (復帰40年沖縄2注起収)(近に沖縄振興措置は、繁地利用推維特計法)(3.30) 沖縄21世紀ビジョン基本計画法定(5.51) 2014 中球20 日本の学20 中球20 中球20 日本の学20 中球20 日本の学20 中球20 日本の学20 中球20 日本の学20 日本の学20 中球20 日本の学20 中球20 日本の学20 日本の学20 中球20 日本の学20 日本の学20	2006	平成18	日米両政府、在沖海兵隊約8000人のグアム移転や本島中南部の基地返還を合意(5.1)			
2010 平成21 「琉球舞踊」が重要無形文化財に指定、「組踊道具・衣裳製作修理」も国の選定保存技術に選定される(9.2) 関南高校が第 82 回選抜高校野珠大会、第 92 回全国高校野珠大会で春夏連覇、史上 6 校目の偉業達成(8.21) 全国高等学校総合体育大会(美 6 島中郷総体)が沖縄味で開催(7.28 – 8.20 「組制の 22 本ス 3 無影を文化遺産代表)以下を整く(1.17) 2011 平成23 重要無形文化財保持者(人間国宝)に沖縄の伝統芸能、組踊音楽歌三線の西江喜春(70) が認定(7.15 サキタリ洞で旧石部時代人骨化石発見 第 32 軍司令部線設明版問題(3.28 48 位 4	2007	平成19	那覇市おもろまちに沖縄県立博物館・美術館新館が開館(11.3)			
型成22 関南高校が第82回選抜高校野球大会、第92回全国高校野球大会で春夏連覇、史上6校目の偉業達成(8.21) 全国高等学校総合体育大会「美ら島沖縄総体」が沖縄駅で開催(7.28-8.20) 2011 平成23 重要無形文化財保持者(人) 4世紀(1.17) 2011 平成23 重要無形文化財保持者(人) 4世紀(1.17) 2012 平成24 復編の中沖縄支法成立(成立中連線製制措施、	2008	平成20				
全国高等学校総合体育大会 [美)島沖縄総体 沖神縄県で開催 (7.28-8.20)	2009	平成21	「琉球舞踊」が重要無形文化財に指定、「組踊道具・衣裳製作修理」も国の選定保存技術に選定される(9.2)			
2012 平成24	2010	10 平成22 全国高等学校総合体育大会「美ら島沖縄総体」が沖縄県で開催(7.28-8.20)				
2012 平成24 復帰40年沖縄2法成立(改正沖縄振興措置法 跡地利用推進特措法)(3.30) 沖縄21世紀ビジョン基本計画決定(5月) 沖縄科学技術大学院大学開学(OIST)(9.1) 政府により尖閣諸島国存化(9.11) オスプレイ12機沖縄強行配備(10.1) オスプレイ配備	2011	平成23	重要無形文化財保持者(人間国宝)に沖縄の伝統芸能、組踊音楽歌三線の西江喜春(70)が認定(7.15)			
2013 平成25 と「主権回復の日」 石垣新空港開港(3.7) 白保学租田原洞穴遺跡人骨化石等発見(10.30) 仲井良知事が政府申請した辺野古沿岸部埋立を承認(12.27) 沖縄県の女性寿命3位 2014 平成26 サキタリ洞で国内最古貝製ビーズ発見(2.15) 慶良間諸島国立公園に指定(3.5) 興商高校ハンドボール3 冠達成(3月~10月) 出近大部町にテーマパーク建設検討(9月)沖縄三越閉店(9.21) 空手の喜友名世界選手権初優勝(11.10) 翁長県知事誕生(12.10) 保息形大橋の間通(1.31) イオンモール沖縄ライカムが米軍施設返還跡地に開業(4.25) 具志堅用高国際ボクシング殿堂入り(6.14) 戦後70年不戦誓う摩文任参列者5400人(6.23) 米軍へリ伊計島沖継落(8.12) 台風被害最大瞬間風速81.1m与那国島(9.28) (2.28) (2.26) 中郷な8 オスプレイ墜落名護市安部海岸(12.13) 子の貧困問題全国2倍 辺野古訴訟県が政訴(12.20) 沖縄本島で雪観測(1.22) サキタリ洞遺跡で世界最古の釣り針発見(9.19) 第6回世界のウチナーンチュ大会(10月) オスプレイ墜落名護市安部海岸(12.13) 子の貧困問題全国2倍 辺野古訴訟県が販訴(12.20) 沖縄空手会館オープン(3.4) 比嘉大吾がWBC世界王者(5.20) 女子プロゴルフ宮里曇引援(5.29) 大田昌秀元知事が死去(6.12) 読谷村子ビチリガマ4少年が売らす(9.12) 安室奈美恵公式サイト引退表明(9.20) パ・リーグ最多勝ソフトバンク東浜巨(10.9) 比嘉聰が入間国宝(太鼓)(10.23) 米軍事故多発(へ)墜落:高江部品高落下:宜野湾)(10月~12月) 県経済好調(バブル越) 流弾不助着発後(米軍事故(1月~5月) 渡見知名護市長就任(2月) 西海岸道路開通(3.18) 翁長雄志県知事が死去(8.8 玉城デニー知事就任(9.30) 安室奈美恵ラストライブ引退(9.16) 台風来襲停電長期化(10月) 下に流球が優勝月2昇格(11.3) パ・リーグ西武山川健高が最優秀選手質MVP県勢初(11.27) 文化遺産国宝窓定(パーストラ 玉陵)(12.25) 辺野古市建地県民知野が死去(8.8 玉城デニー知事就任(9.30) 安室奈美恵ラストライブ引退(9.16) 台風来襲停電長期化(10月) で地球は上間、ウキカス(12.14) 2018 平成31 辺野古新基地県民投票7割工事反対(2.24) パ・リーグ2年連続本塁打工山川健高(9.29) 首里域火災(10.31) 県内観光客1000万人突破 沖縄都市モノレール浦添まで延伸(10.1) 組踊300年記念事業開催の元本で選集人投票7割工事反対(2.24) パ・リーグ2年連続本塁打工山川健高(9.29) 首里域火災(10.31) 県内観光客1000万人突破 沖縄都市モノレール浦添まで延伸(10.1) 組踊300年記念事業開催の主席を選集の出来の登場を表記を開展して上の対域を開展して上の対域を開展して上の対域を開展して上の対域を開展して上の対域を開展して上の対域を開展して上の対域を開展して上の対域と対域を開展して上の対域と対域と対域と対域と対域と対域と対域と対域と対域と対域と対域と対域と対域と対	2012	12 │ 平成24 │ 復帰40年沖縄2法成立(改正沖縄振興措置法 跡地利用推進特措法)(3.30) 沖縄21世紀ビジョン基フ				
型成26 関南高校ハンドボール3 活達成(3月~10月)	2013	マ成25 オスプレイ配備撤回「建白書」携え東京行動(1.28) 4.28サンフランシスコ講和条約締結の記念式典に抗議「と「主権回復の日」 石垣新空港開港(3.7) 白保竿根田原洞穴遺跡人骨化石等発見(10.30)				
2015 平成27 具志堅用高国際ボクシング殿堂入り(6,14) 戦後70年不戦誓う摩文仁参列者5400人(6,23) 米軍へリ伊計島沖墜落(8,12) 台風被害最大瞬間風速81.1m与那国島(9,28) 2016 平成28 沖縄本島で雪観測(1,22) サキタリ洞遺跡で世界最古の釣り針発見(9,19) 第6回世界のウチナーンチュ大会(10月) オスプレイ墜落名護市安部海岸(12,13) 子の貧困問題全国2倍 辺野古訴訟県が敗訴(12,20) 沖縄空手会館オープン(3,4) 比嘉大吾がWBC世界王者(5,20) 女子プロゴルフ宮里藍引退(5,29) 大田昌秀元知事が死去(6,12) 読合村チビチリガマ4少年が荒らす(9,12) 安室奈美恵公式サイト引退表明(9,20) バ・リーグ最多勝ソフトバンク東浜巨(10,9) 比嘉聰が人間国宝(大鉄)(10,23) 米軍事故多発(へり墜落:高江部品落下:宜野湾)(10月~12月) 県経済好調(バブル越) 流弾不時着続く米軍事故(1月~5月) 波具知名護市長就任(2月) 西海岸道路開通(3,18) 翁長雄志県知事が死去(8,8 五城デニー知事就任(9,30) 安室奈美恵ラストライブ引退(9,16) 台風来襲停電長期化(10月) 下C琉球が優勝 J2昇格(11,3) バ・リーグ西武山川穂高が最優秀選手賞MVP県勢初(11,27) 文化遺産国宝認定(パーントゥ 玉陵)(12,25) 辺野古埋め立て土砂投入(12,14) 辺野古新基地県民投票7割工事反対(2,24) パ・リーグ2年連添本塁打王山川穂高(9,29) 道里城火災(10,31) 県内観光客1000万人突破 沖縄都市モノレール浦添まで延伸(10,1) 組踊300年記念事業開催 2020 令和2 添加プロナウ東部で感染34年ぶり(1月) 新型コロナ感染者県内初確認(2,14) 那覇空港第2滑走路運用開始(3,26) 「バ・リーグ最優秀新人賞に西武平良海馬が県勢初選出(12,17) 東京五輪・パラリンピックで県勢選手活躍 喜友名諒が空手男子形で金メダル獲得、平良海馬が野球で金メダル(7~8月) 新型コロナウィルス感染症拡大809人(8,29) 沖縄沿岸部に軽石漂着	2014	平成26	興南高校ハンドボール 3 冠達成 (3月~10月) USJ本部町にテーマパーク建設検討 (9月) 沖縄三越閉店 (9.21) 空手の喜友名世界選手権初優勝 (11.10)			
2016 平成28 オスプレイ墜落名護市安部海岸(12.13) 子の貧困問題全国2倍 辺野古訴訟県が敗訴(12.20)	2015	平成27	具志堅用高国際ボクシング殿堂入り(6.14) 戦後 70年不戦誓う摩文仁参列者 5400人(6.23) 米軍へリ伊計島沖墜落(8.12) 台風被害最大瞬間風速 81.1m与那国島 (9.28)			
2017 平成29	2016	平成28				
2018 平成30 流弾不時着続く米軍事故(1月~5月) 渡具知名護市長就任(2月) 西海岸道路開通(3.18) 翁長雄志県知事が死去(8.8	2017	平成29 沖縄空手会館オープン(3.4) 比嘉大吾がWBC世界王者(5.20) 女子プロゴルフ宮里藍引退(5.29) 大田昌秀元知事が死去(6.12) 読谷村チビチリガマ4少年が荒らす(9.12) 安室奈美恵公式サイト引退表明(パ・リーグ最多勝ソフトバンク東浜巨(10.9) 比嘉聰が人間国宝(太鼓)(10.23)				
・令和元年 首里城火災(10.31) 県内観光客1000万人突破 沖縄都市モノレール浦添まで延伸(10.1) 組踊300年記念事業開催	2018	平成30	成30 流弾不時着続く米軍事故(1月~5月) 渡具知名護市長就任(2月) 西海岸道路開通(3.18) 翁長雄志県知事が死去 玉城デニー知事就任(9.30) 安室奈美恵ラストライブ引退(9.16) 台風来襲停電長期化(10月) FC琉球が優勝J2昇格(11.3) パ・リーグ西武山川穂高が最優秀選手賞MVP県勢初(11.27)			
2020 中和2 パ・リーグ最優秀新人賞に西武平良海馬が県勢初選出 (12.17)	2019					
2021 令和3 東京五輪・パラリンピックで県勢選手活躍 喜友名諒が空手男子形で金メダル獲得、平良海馬が野球で金メダル(7~8月) 新型コロナウィルス感染症拡大809人(8.29) 沖縄沿岸部に軽石漂着	2020	令和2				
0000 人た4 佐根でのため棚 が取っつます リップがたは 100円 (1.10)	2021	令和3	東京五輪・パラリンピックで県勢選手活躍 喜友名諒が空手男子形で金メダル獲得、平良海馬が野球で金メダル (7~8月)			
2022 - 守和4 - 復帰50年冲縄 新型コロナワイルス感染症拡大1817人(1.13)	2022	令和4	復帰50年沖縄 新型コロナウィルス感染症拡大1817人(1.13)			